

ニュージーランド リンゴ・ナシ産業は年間20億NZドルの貢献

[FreshPlaza 2024年10月23日](#)

ニュージーランドのリンゴ・ナシ産業が19億6千万NZドルの収益と持続可能性の向上で経済を後押し

生産性の向上と高価値品種の増加により、ニュージーランドのリンゴ・ナシ産業は、過去12カ月間で国民経済に約20億NZドル(1NZドル=約91円)の総収益効果をもたらしたことが、マーティンジェンキンス社の新しい調査で明らかになった。

土地利用の減少が記録された一方で、果樹園・梱包施設インフラの革新や、価値の高い新品種の植栽への投資により、この業界は2023年には過去最高の19億6千万NZドルの総収益効果を生み出した。

「ニュージーランドのリンゴ・ナシ産業の経済的貢献2024」の調査は、マーティンジェンキンス社によって実施され、国民経済及び主要な地域経済におけるこの業界の価値を明らかにした。

1万2千人以上の常用及び季節的な労働者を雇用するリンゴ・ナシ産業は、ニュージーランドの総輸出額を上回る成長率を記録した。2023年までの10年間で、このセクターの輸出額は3億4,700万NZドルから8億9,200万NZドル以上に増加した。

生産性と出荷率の向上は、梱包施設と冷蔵施設の二酸化炭素排出量を19%削減し、リンゴの輸出バリューチェーン全体でも13%削減することに貢献した。

ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会CEOのカレン・モリッシュ氏は、業界が引き続き産出額の成長を目標とする中で、この経済報告書は貴重なスナップショットを提供すると述べている。

同氏は、「我々の輸出額の増加が、生産性の向上と投資の増加、及び国際市場の多様化によるものであることを嬉しく思う。業界として、これらの効率性により、産出額と利益がさらに成長する余地が生まれると考えている。適切な条件が整うことにより、当業界の国や地域の経済への貢献を確保し、安全で持続可能な状態を保ち、そしてここニュージーランドで世界最高品質の果実を生産し続けることができる」と語った。

ニュージーランドが今後10年間で輸出額の倍増を目指す中で、T&G グローバル社のリンゴ部門の最高執行責任者(COO)であるシェーン・キングストン氏は、リンゴ・ナシ部門がこの目標の達成に重要な役割を担っていると述べている。

キングストン氏は、「ニュージーランドは、知的財産、革新的な栽培・収穫後処理システム及び世界クラスの食品安全、食品品質、持続可能性の基準に関して、世界をリードする地位を占めている。このことと、環太平洋地域という地理的な位置付けとが相まって、本セクターは高めた価値を補足するのに適したポジションにいる」と話す。

同氏はまた、「弊社では、多額の投資により、独自のプレミアム品種の開発と栽培、自動化への対応のための果樹園の再整備、及びホークスベイ地方にある世界をリードする9千万NZドルの自動梱包施設の整備を行ってきた。弊社自身の人材と外部とのパートナーシップを通じて、市場での強力な販売力と販売実績を築くという弊社のコミットメントと相まって、この投資は、グローバルブランドを構築し、生産性を向上させ、生産者と地域コミュニティに多くの利益を提供するのに役立っている」と語った。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)